

## 神戸の「猫カフェ 猫の屋おでん」が営業再開 動物絵師「竹馬」の作品展も

シェア 15 ツイート LINEで送る

2020/06/09

神戸市の「猫カフェ 猫の屋おでん」が、6月1日から営業を再開した。猫の屋おでんは、「猫と人が幸せに暮らすためのコミュニティづくり」をコンセプトとし、「ブリーダーから迎えた猫」と「保護団体から迎えた猫」の両方がいる、全国でも珍しいスタイルの猫カフェだ。コンセプトに共感して、全国各地から訪れる愛猫家から、「猫カフェは初めて」という近隣の人たちまで、客の顔ぶれも幅広い。



猫スタッフ「ちくわ」（写真：水野さちえ）



猫スタッフ「まる」（写真：水野さちえ）

営業再開にあたっては、自粛前から徹底していた清掃や換気に加え、客の定員（10人）を6人に絞ることで、できる限り「密」を防ぐ対策をしている。また、「自粛期間中に、さらに充実させた」（スタッフ談）という物販コーナーで、猫グッズの買い物も楽しめそうだ。



物販コーナー。人だけでなく猫も楽しめるグッズが並ぶ（写真：水野さちえ）

## ■動物絵師「竹馬」の作品展も

営業再開にあわせ、併設のギャラリーでは、動物絵師「竹馬（ちくま）」の大矢清人（おおや・きよと）さんによる作品展が開かれている。



大矢清人さん（写真：水野さちえ）

京都の呉服商の家に生まれ育った大矢さんは、幼少期から似顔絵を描くのが得意だった。家業の修行をするなかで、友禅作家を目指すようになり、友禅染の工程のひとつである「糸目」（下絵の模様の輪郭に、防染のための糸目糊をひくこと）の研鑽を積んだ。

「ありとあらゆる線が描けるようになった」という大矢さんだが、諸事情で、京都の健康食品会社に転職する。そこでペット向けの健康食品の営業を任された際、展示会のブースで「謎の画伯」としてペットの肖像画を描いてプレゼントしたところ大好評。また社内では、絵だけでなくビジネスの手腕も発揮し、社長に就任した。34年にわたる会社生活を終えた後も「自分の絵で誰かが喜んでくれるのなら」と、創作活動を続けている。

大矢さんが描く肖像画は、繊細なタッチと、「まるで命を宿しているような」生き生きとした質感が特徴的だ。その線は、なんとボールペン1本で描かれている。そこに、水彩で色をのせていくのだという。今回の作品展にあわせ、猫の屋おでんを通じてペットモデルを募集したところ、数日で定員を上回る応募があった。

「描いた絵を、お客さんに初めて見ていただく時の顔を見るのが、何より楽しみでうれしい」とニコニコ話す大矢さんの表情も、とても柔らかいのが印象的だ。



大矢さんの作品。線はボールペン1本で描かれている。(写真：水野さちえ)



ペットモデルたちを描いた作品 (写真：水野さちえ)

猫と触れ合えるだけでなく、「猫」にまつわる出会いもたっぷりの「猫の屋おでん」。まだまだ気が張る日々が続くなか、訪れると優しくあたたかな気持ちになれそうだ。

(取材・文＝水野さちえ)

<猫カフェ 猫の屋おでん>

住所 神戸市灘区天城通3-1-2

営業時間 午前11時～午後8時 (最終入店は午後7時)

定休日 火曜、水曜 (祝日の場合は営業)

---

【猫カフェ 猫の屋おでん】

ホームページ

<http://nekonoya-oden.com/>

Instagram

[https://www.instagram.com/nekonoya\\_oden/](https://www.instagram.com/nekonoya_oden/)

【動物絵師「竹馬」】

Instagram

[https://www.instagram.com/painter\\_chikuma/](https://www.instagram.com/painter_chikuma/)

---